



平成 23 年 3 月 3 日

報道関係各位

**ACC カンヌライオンズ「ヤング クリエイティブ コンペティション」国内選考会結果発表**

**激戦を制したのは、**

**フィルム部門 上野 恵さん（所属会社 ダンスノットアクト）、**

**山澤 雅之さん（所属会社 読売広告社）**

**プリント部門 高橋 優さん、三國 菜恵さん（所属会社 電通）**

社団法人 全日本シーエム放送連盟

社団法人 全日本シーエム放送連盟（略称：ACC、東京都港区、理事長：永田 圭司）は、国際的に通用する若手クリエイターの育成を目的として、ACC カンヌライオンズ「ヤング クリエイティブ コンペティション」国内選考会を実施しました。3月3日に選考会を開催して慎重に審査した結果、優勝はフィルム部門で上野 恵さん（所属会社 ダンスノットアクト）、山澤 雅之さん（所属会社 読売広告社）のチーム、プリント部門で高橋 優さん、三國 菜恵さん（所属会社 電通）に決定しました。優勝チームは6月にフランス・カンヌ市で開催される「カンヌライオンズ国際クリエイティビティ・フェスティバル（通称：カンヌライオンズ）」の「ヤング クリエイティブ コンペティション」に参加し、世界各国代表の若手クリエイターとクリエイティブのアイデアと技術を競うことになります。

当連盟国際部会では、海外の著名広告コンクールを紹介していくことで、わが国のクリエイターに常に新しい世界からの情報を提供しCMの質的向上に努めております。海外広告賞の中でも最も権威があると称されている「カンヌライオンズ」に関しては、ACCでは、現地視察ツアーのご案内、現地会場でのACCラウンジ開設及び専用の登録ブースの設置、フィルム部門審査員選考、そしてカンヌライオンズ「ヤング クリエイティブ コンペティション」日本代表チーム選出といった活動を行っております。

2011 ACC カンヌライオンズ「ヤング クリエイティブ コンペティション」国内選考会では、今年も「フィルム部門」「プリント部門」の2部門で実施しました。テーマはフィルム部門が「水の危機」、プリント部門が「ドメスティックバイオレンス」で、選考は現地同様に、英語でのオリエンテーション後、規定時間以内に作品を提出していただくという方法で行い、その作品をカンヌの審査員経験者によって審査しました。本年はフィルム部門 96 チーム 192 人（昨年は 97 チーム 194 人）、プレス部門に 139 チーム 278 人（昨年は 130 チーム 260 人）が参加、熱戦を繰り広げました。審査会は3月3日に行われ、その結果は当日後6時30分より開催された発表会（セレブレーションパーティ）で発表しました。



なお、国際部会では、日本代表チームを含む上位チームに対して、若手育成プログラムを立ち上げました。オリジナルのカリキュラムを組んで、6月本番までにトレーニングのためのワークショップを実施します。また、日本代表チームに対しては、ACCが派遣費用を援助します。

実施要領と結果は別紙のとおりです。

この件に関するお問い合わせ先  
(社) 全日本シーエム放送連盟 (ACC)  
〒105-0004 東京都港区新橋 3-1-11 長友ランディックビル 5階  
電話 03-3500-3261 FAX 03-3500-3263  
ホームページ <http://www.acc-cm.or.jp>  
担当：古川 小原



**ACC カンヌライオンズ「ヤング クリエイティブ コンペティション」国内選考会**

**結果と実施要領**

**<結果>**

**【フィルム部門】**

**\*優勝者** 上野 恵さん（所属会社 株式会社ダンスノットアクト）、  
山澤 雅之さん（所属会社 株式会社読売広告社） のチーム

**2位** キリーロバ ナージャさん、佐藤 雄介さん（所属会社 株式会社電通）  
のチーム

**3位** 鳥巢 智行さん、大来 優さん（所属会社 株式会社電通）のチーム

**【プリント部門】**

**\*優勝者** 高橋 優さん、三國 菜恵さん（所属会社 株式会社電通）のチーム

**2位** 高木 春奈さん、川嶋 ななえさん（所属会社 株式会社博報堂）のチーム

**3位** 多田 秀彰さん、堀 崇将さん（所属会社 株式会社電通）のチーム

**<スケジュール>**

オリエンテーション	2月15日（火）	プリント部門／フィルム部門
作品提出	プリント部門	2月16日（水）
	フィルム部門	2月17日（木）
選考会	3月3日（木）	
セレブレーションパーティ	3月3日（木）	18：30～選考結果発表と講評、参加者懇親会

**<オリエンテーション>**

審査員から英語でオリエンテーションを実施します。課題は当日発表します。

**<審査員>** \*\*\*カンヌ審査経験者を中心としたメンバーにより選考

鏡 明氏（電通）	大谷 義智氏（読売広告社）
川越 智勇氏（アサツーディ・ケイ）	河野 俊哉氏（博報堂）
佐藤 カズー氏（TBWA\HAKUHODO）	塚田 由佳氏（電通）
永井 一史氏（HAKUHODO DESIGN）	溝口 俊哉氏（マッキンゼーエリクソン）
新妻 英信氏（博報堂）	



<課題と提出作品への指示> ※フィルム部門とプリント部門は別課題

### 【フィルム部門】

#### ■テーマ：水の危機 / Water Crisis

■クライアント：「Act for Water Crisis / AWC」とは、日々の生活の中から、ひとりひとりが節水を意識したライフスタイルを楽しく取り入れることで、水の危機 / Water Crisisを防ぐことめざす非営利団体。

■提出物：TV-CM30秒

#### ■テーマについて：

水の危機（みずのきき、Water crisis）とは、地球上の水資源と人類の需要とを比較したときの状態をさし、世界規模で見た水資源の状況を表す言葉として、国際連合などの国際機関が使用しています。

地球上の生物は、淡水がなければ生きられません。しかし、地球の水の98%は海水で、淡水はわずか2%です。その淡水の70%は氷河で、残り30%が地下水です。実は、地球上に存在する水のわずか0.01%で、陸上生物は生きています。わずか0.01%の水を、すべての陸上生物が分かち合っているということです。

しかし現在、この瞬間にも、安全な飲料水を確保できない人々があります。その数は世界人口に換算すると約1/5に相当するおよそ12億人とされ、毎日6,000人もの子供たちが不衛生な水が原因で亡くなっています。

水はすべての命の源です。水が枯渇すると、当然農作物の収穫高に影響し、食料不足に繋がります。最終的には、すべての生物が絶滅してしまうという深刻なWater crisisにつながります。

Water crisisの深刻化は、日本にとっても決して無関係ではありません。日本では消費している食料の約6割を外国に頼っています。日本が輸入する食料をつくるために、その国では大変貴重である水を使用しなくてはなりません。

本来であれば、現地の人たちの生きていくための水を、日本人の為に使っているという事になるのです。つまり、日本は食料という形で、かなりの量の水を輸入しているということなのです。日本が輸入する食料の生産に必要な水の量は年間数百億 $m^3$ （数百億立方メートル）に相当するといわれています。

#### ■広告の目的

Water crisisは、世界規模の環境問題だけでなく、あなた自身の問題でもあります。それぞれが日々の過ごし方を見直すことが、地球環境の大きな改善に結びつくことを、具体的なアイデアとともに伝え、視聴者に参加するよう促してください。

#### ■ターゲット

世界規模の水の危機について気付いていない（関心のない）全ての視聴者



## 【プリント部門】

### ■テーマ：ドメスティックバイオレンス / Domestic Violence

■クライアント：「ADV - Against Domestic Violence」すべての人が人権を尊重し、安全に安心して暮らせるために、「ドメスティックバイオレンス」を許さない、見逃さない地域づくりをめざす非営利団体。

■提出物：雑誌見開き

### ■テーマについて：

「ドメスティックバイオレンス」(domestic violence、以下 DV と記述)とは、同居関係にある配偶者や内縁関係や両親・子・兄弟・親戚などの家族から受ける家庭内暴力のことである。しかし、近年では DV の概念は同居の有無を問わず、元夫婦や恋人など近親者間に起こる暴力全般を指す場合もある。

DV が発生する文化や社会の背景には、「男は働き、女は家事をする」「男は女より偉い」「女は男より偉い」といった間違っただジェンダー意識や、「暴力も愛情表現だ」「愛しているなら言いなりになれ」といったゆがんだ考え方が存在する。

DV における、虐待の種類には、以下のようなものがあり、長期化することはもちろん、被害者は死に至ることもある。

1. 身体的暴力 - 殴る、蹴る等
2. 精神的暴力 - 脅す、罵る、馬鹿にする、無視する等。
3. 性的暴力 - 性交の強要、避妊をしない、異常な行為を強要する等。
4. 経済的暴力 - 生活費を入れない、家の金を持ち出す、借金を繰り返す等。
5. 子供を利用した暴力 - 子供に会わせない、子供の行動を理由になじる等。
6. 社会的暴力 - 行動を監視する、外出を妨害する等。

DV の被害が早期発見しづらい原因には、

- 加害者は、自らの行動を DV だとは考えず、正しい主張、教育だと考えてしまうこと。
- 被害者は、家庭内の事だからと誰にも相談せず、家族のために我慢してしまうこと。
- 第三者は、核家族化が進む中、他人の家庭の問題に意見を言いつらいこと。

などがある。

### ■目的：

DV は家庭内だけの問題ではなく、地域や社会全体で解決すべき問題であることを啓発していくことが必要です。「あなたの身近に、DV のサインを感じたら、私たちに相談してください」と電話（ホットライン）をかけてくれるよう促してください。

(Hot Line : 101-101)

### ■ターゲット

DV に対し無関心な人々すべて。



<選考結果発表>

選考の結果は、審査当日に発表会（セレブレーションパーティ）を開催して、その席で発表。発表の際に、審査員から講評。（セレブレーションパーティ会場には、全エントリー作品が掲示される）

発表会にはエントリーチーム全員をご招待し、ACC理事、国際部会委員及び関係者も出席。

<カンヌライオンズ 国際クリエイティビティ・フェスティバル 日本代表>

株式会社東映エージェンシー

<協力と協賛>

Getty イメージズ ジャパン株式会社

カンヌライオンズ公式イメージプロバイダー会社であるGetty イメージズ ジャパン株式会社より本コンペティション(プリント部門)への素材の提供をいただいております。

株式会社アサツー ディ・ケイ

株式会社オムニバス・ジャパン

株式会社東北新社

株式会社博報堂

<カンヌライオンズ ヤング クリエイティブ コンペティションとは>

1995年から始まったカンヌ国際広告祭でのスペシャルイベントとして注目される催しです。世界30ヶ国以上の国別代表チーム（28歳以下のクリエイター）が出場し、現地において出題された同一課題に対して規定時間以内に作品を提出し、競われるクリエイティブコンペティションです。1位～3位までのチームは、現地の表彰式にて顕彰されます。

<ご参考：これまでの国内選考会の課題と優勝者（敬称略）>

【フィルム部門】

年	課題	優勝者
2006	フカひれの需要を抑制する	佐藤玲彦、大島美緒（電通）
2007	もっと歩こう！	北田有一（電通）、菊池浩史（葵プロモーション）
2008	もっと読書を！	杉山元規、長部洋平（オグルヴィ・アンド・メイザー・ジャパン）
2009	ネットいじめ	武井哲史（アサツー ディ・ケイ）、高島夏来（東北新社）
2010	フード マイル	小笠原 健、徳野 佑樹（博報堂）

【プリント部門】

年	課題	優勝者
2003	遺伝子組換え食品	山田慶太、佐藤 拓（電通）
2004	ユニバーサルデザイン	藤井亮、張間純一（電通）
2005	小児肥満問題	後藤一臣、神原秀夫（電通）
2006	少年犯罪	下東史明、宮脇亮（博報堂）
2007	動物園で虐待されている動物の救護	青柳有美子、砥川直大（アサツー ディ・ケイ）
2008	少年兵の禁止	大野瑞生、武田正文（ライトパブリシティ）
2009	アニマルセラピー	工藤真穂、土居美由希（電通）
2010	存在しない子どもたち	大山 徹（電通）、伊藤 真也（電通テック）